

ISO 45001 発行 からの 4 年間

ISO 45001 策定時からのメリット

ISO 45001 は非常に好意的に受け止められており、多くの分野で OHSAS 18001 からの次のステップとして認識されています。特にリーダーシップ、働く人の協議及び参加、そして具体的な組織の文脈に関する要件である、各組織の特定の状況を実際に反映するようにマネジメントシステムを調整する必要があることが強調できていると思います。

ISO 45001は、Annex SL（附属書 SL）による共通テキスト文書の採用を受けて、他のマネジメントシステム規格との整合性からも恩恵を受けています。ISO 9001（品質マネジメント）、ISO 14001（環境マネジメント）また附属書SLが採用されている他規格と同様の上位構造（ハイレベルストラクチャー）がISO 45001にも採用されています。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的なパンデミックは、職場環境や働き方において大きな影響を与えました。ISO 45001は、ISO PAS 45005で提供される追加ガイダンスとともに、PDCAサイクルに基づくフレームワークと、リーダー

シップ、働く人の協議及び参加を強調し、組織はこれらの必要な変更を効果的に実施し、その変更の影響を評価し、必要に応じて改善することが可能になっています。

特に、リーダーシップ、働く人の参加を重視したPDCAという構造により、組織は効果的に変化を起こし、その影響を評価し、必要に応じて改善することができました。これは、効果的なマネジメントシステムはコンプライアンスではなく、組織に適応し改善を推進する能力を提供するというものであり、それを通じて組織の回復力とサステナビリティに貢献することだと実証されました。

パンデミックの状況下では、労働者の心理的健康と安全の問題が特に注目される機会です。それもあって2021年、職場の心理社会的におけるリスクマネジメントのガイダンスであるISO 45003の発行に至りました。これは、組織がISO 45001により必要なものを理解するのに役立つだけでなく、労働者の心理的健康と安全の問題に取り組むためにガイダンスが強く必要とされた領域です。労働者の心理的健康とウェルビーイングに積極的に取り組むことで、事後の回復よりも、被害が発生する前に危険性を排除し、リスクをコントロールすることに焦点が置かれます。これは、従業員の士気の向上、離職率の低下、組織全体の効率の向上に貢献します。

ISO 45001 が新しい働き方をどのように支援、改善したか

ISO 45001では、職場を「労働者が仕事のために移動または滞在する必要がある場所」と定義し、その職場に対して組織が持つ管理水準が異なる可能性があることを示しています。この定義は、実際にISO 45001が最初に策定されたとき、パンデミック以前にリモートワークがすでに普及していたため、その一部として含まれていたものです。

しかし、新型コロナウイルス感染症による突然のロックダウンの結果、多くの人にとってリモートワークが唯一の現実的な解決策となりました。これは、物理的な労働環境と心理社会的な影響という点で、新たな課題を引き起こすことになりました。リモートワークの方だけが対象ではなく、船員やメディア関係者の方々等、家族と離れて過ごす時間が長くなる方も考慮されています。

つまりISO 45001には、組織がリモートワークに対処するための要件が含まれており、ISO 45001はそういった事に対処・実装するフレームワークを提供します。ISO 45003もまた労働者の心理的健康と安全の問題という点に関して有用なガイダンスを提供します。組織の管理下にまだ置かれていない職場について考慮すると、ISO 45001で非常に強く強調されている働く人の協議及び参加の要素に当てはまり、リモートワークの課題に対処しようとするときでも成功をもたらす重要な要素だと言えます。

ISO 45001 の採用が世界規模で加速している

2021年の最新のISO調査に基づくと、ISO 45001は、新しい規格であるにもかかわらず、現在、品質のISO 9001、環境のISO 14001に次いで3番目の認証数になっています。注目すべき点は、同じ調査に基づくその年間成長率が、ISO 9001が4%、ISO 14001が12%であるのに対し、490%であることです。

この急成長の多くは、以前OHSAS 18001の認証を受けていた組織の大半がISO 45001に移行したことが要因です。知名度の向上と労働安全衛生をより重視する傾向により、多くの組織がISO 45001を採用し、OHSAS 18001からの移行作業を完了しました。

新型コロナウイルス感染症は、組織のESG（環境・社会・ガバナンス）に対する投資家の関心が高まっていることと同様に、この傾向に大きな影響を与えたことは確かです。また、レジリエンスとサステナビリティの必要性がより一層認識され、労働安全衛生マネジメントシステムはこれらすべての要因に重要な役割を果たしています。

ISO 45001の影響力は、追加言語への翻訳や複数の国での国家規格としての採用によって、国際的に拡大し続けています。最近の例では、ヨルダンでISO 45001が国家標準として採用され、アラビア語で出版されたことで、中東での受け入れと導入が進むと期待されています。オーストラリアとニュージーランドでは、ISO 45001が採用されたことにより、一部の政府入札の要件となり、法律で言及されるようになりました。これは、SDGs（国連の持続可能な開発目標）との整合性と、国民の全体的な向上に役立つという価値が認められたためです。

進歩の実現とサステナビリティの向上

ISO 45001は、労働安全衛生およびウェルビーイングのより良いマネジメントを通じて、世界中の組織が職場環境を改善し、労働者の満足度を高め、全体的な効率を向上させることを支援、実現しています。

サステナビリティとレジリエンスへの注目が高まる中、組織は気候変動、職場の人口動態の変化、多様性と包摂性に関する社会的期待の変化など、多くの課題に直面しています。組織は、特にこのような不確実な時代に、労働者の健康、安全、ウェルビーイングをマネジメントするために、積極的、協動的、体系的なアプローチを採用することで、効果的に前進を受け入れ、最高のパフォーマンスと成果を促進することができます。

ISO 45001 の変遷

2021年に実施された各国標準化団体の投票に回答した国の大多数が、ISO 45001を今のところ現状維持するよう求めています。その結果、現在の規格は引き続き確定したものの、このプロセスでは、改訂が行われた場合にISO 45001のどこを改善すればよいのか、多くの提案がなされました。

また、毎年行われるISO 45001のユーザー調査でも直接ご意見をいただいております。その結果は、ISO 45001労働安全衛生マネジメントシステムの継続的開発を担当する委員会であるISO/TC 283を通じて、まもなくウェブサイトやソーシャルメディア上で共有される予定です。

そこで委員会は、このフィードバックや、気候変動、新技術、職場の境界線の変化といった課題に対処するために変更が必要と思われる他の分野を検討するタスクグループを設置することを提案しています。これには、最新版の附属書SLの影響の検討や、包摂性に関する文言をどのように調整し、より明確な方向性と事例を提供するかの検討も含まれる予定です。

ISOが昨年実施した調査では、特にジェンダー対応に注目し、包摂性の問題に取り組むために使用される言葉が、「すべての労働者のニーズに取り組む」といった一般的なものになりました。今後、すべての労働者のニーズに対応できるよう、これらの非特異的なフレーズの解釈方法を説明するために、より具体的で明確かつ曖昧さのない言葉がガイダンス規格に含まれる予定です。

改訂の際に特に考慮すべきは、多くの国で経済のかなりの割合を占める中小企業（SMEs）に対するISO 45001の適用性と可用性と考えられます。ISO 45001の原則は中小企業にも同様に適用されますが、中小企業の規格に対する認識と使用は、大規模な組織と比較してあまり普及しておらず、使用されている言語の一部が採用の障壁となっている可能性があるという意見が寄せられています。一方、中小企業の状況に合わせたISO 45001ハンドブック「小規模組織のための実践的ガイド」は、中小企業が規格を採用し、その実施から利益を得るためのガイダンスを提供する現在の取り組みの一部となっています。

今後の労働安全衛生マネジメントシステムガイダンス規格

世界中で労働安全衛生のパフォーマンスを向上・発展させるための継続的な取り組みの一環として、現在3つのガイダンス規格を開発中です。

- 2017-2018 ISO 45001:**
2017年11月末の最終案公開に続き、労働安全衛生の国際規格 ISO 45001 (OH&S) が2018年3月12日に発行されました。
- 2019 - 2021 ISO 45003:**
組織が心理社会的リスクをマネジメントする方法の枠組みであるISO 45003のガイダンス案が2019年に作成され、2年間の協議と改訂期間を経て2021年6月に発行されました。
- 2020 ISO/PAS 45005:**
新型コロナウイルス感染症が発生した直後、パンデミック時の安全な作業に関するガイダンスとしてISO/PAS 45005が策定されました。
- 2022 年末に発行予定 ISO 45002:**
ISO 45001の要求事項の実施ガイドです。
- 2023 - 2024 年発行予定 ISO 45006:**
職場における感染症の予防と対策に関するガイダンス文書です。
- 2024 年発行予定 ISO 45004:**
労働安全衛生マネジメントシステムのパフォーマンス評価に関するガイダンス文書。

お問い合わせ

詳細については、
<https://www.lrqa.com/ja-jp/>
をご覧ください。

LRQAリミテッド
〒220-6010
横浜市西区みなとみらい2-3-1
クイーンズタワーA10階



LRQA

YOUR FUTURE. OUR FOCUS.